

与那国町長
上地常夫 殿

2025年 12月10日

与那国町の明るい未来を願うイソパの会
共同代表 山口京子
狩野史江
与那国町与那国131
070-5492-1479

「対空電子線部隊配備容認」についての議会審議を求める要望書

去る12月4日、防衛相による対空電子線部隊配備に関する説明会の開催にご尽力下さり感謝申し上げます。

「対空電子線部隊配備についての説明会」ではマスコミ発表で80名～100名の参加者でした。全町民を対象とするならば、高齢者や身体に障害のある方への配慮から、離島総合センターや三集落での説明会が必要ではなかったでしょうか。

説明会直後の取材に対し、「前町長が容認しているので、容認」との発表をされましたが「国からの要請は議会、住民に図り、住民の合意を得て決定する。今の設備で抑止力は果たしている。これ以上、与那国の自然を変えてはいけない。」と演説されていた事とは大きく異なり、投票した住民の民意が反映されておりません。

よって、以下を要望いたします。

- ・「対空電子線部隊配備」について住民の意見を聞き、議会での審議をして下さい。
- ・「対空電子線部隊配備容認」の撤回、もしくは保留をマスコミに対し発表してください。

与那国町議会 議長 崎元 俊男 殿

町議会議員 各位

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

オスプレイ飛行禁止を求める要望書

与那国島でのオスプレイ事故をうけ今後の日米共同統合演習を中止してください

オスプレイは開発段階から墜落事故が相次ぎ、昨年 11 月のオスプレイ屋久島墜落事故での搭乗者 8 名の死亡事故により総数 63 名の死亡者を出している事から「キーン・ソード 25 日米共同統合演習」において与那国へのオスプレイ飛行中止陳情書を 10 月 7 日防衛省、与那国町、与那国町議会へ提出しました。

沖縄県知事は「オスプレイ飛行自粛」を国へ申し入れましたが、防衛省は聞き入れず、2024 年 10 月 27 日与那国島で事故が起きてしまいました。この事故は機体が左右に激しく揺れている映像からも分かる通り、墜落の大惨事にならなかったのが、せめてもの救いでした。搭乗者の心身の衝撃は計り知れなく十分な精神的ケアが必要になるでしょう。この欠陥機オスプレイを住民・負傷者搬送に使うなど、町として認めるのでしょうか？この事故を受け以下を要望致します。

●日米共同統合演習は地域住民の生活に著しく不安を与えるものであるため、今後の日米共同演習を中止し、オスプレイを飛行禁止にしてください。そして日本全国での飛行差し止めが広がるように願っています。

●日本国憲法の 3 本柱である「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の三原則に従い、戦争に向かう演習を直ちに中止し、私達日本国民が平和で安心して文化的生活が営めるよう外交をしっかりと行い、信頼関係を築くよう 国境の島の町長・町議会として、国へ訴えて下さい。

●2023 年 5 月の住民説明会では「2025 年度に配備予定のミサイルは反撃能力はない。」との防衛省の説明がありました。しかしスタンドオフミサイル（反撃能力を有す長距離ミサイル）を与那国島でも配備計画を検討との報道があります。住民説明会での防衛省側の回答は、反故になることが多く、信用できません。

これ以上私達住民が住むこの与那国島を軍備増強をして「軍事の島」にすることを止めてください。与那国島オスプレイ事故について臨時議会を開催し、オスプレイ飛行禁止の採択を防衛省に届けるよう要望致します。

2016年6月10日

与那国町長

外間 守吉 殿

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

共同代表 山口 京子

狩野 史江

要望書

この1年で、与那国島は大きく変わりました。観光客や、島の人をも癒してくれた、南牧場には巨大な基地が、立ち並び、この小さな島のいたるところから、自衛隊の異様なアンテナ等を望むことが出来ます。そんな中、この島で生きていく私達が声を上げていくことの必要性を感じています。このまま、島で今までのように、暮していくことにも疑義を感じ始めていますが、その前に、自分が住む町に要望をぶつけてみようと思うようになりました。

- 島を訪れる多くの観光客や島に住む住民に対する配慮を町当局として、自衛隊に申入をおねがいします。

迷彩色着用の兵士・大きな軍事車両の走行・戦争や争いを想起させないような配慮。

- 自衛隊を配備したことで、島を二分した影響は今も続いています。多くの人が反対してきたことを理由に、不利益を被っています。

私たちの仲間は、反対派との理由で、役場の臨時の仕事を断られました。

公務員は、一部の者の利益のために奉仕してはならないとありますが、与那国町はこの規定に反しています。町長自らが、島の融和を務めて、改善すべきだと思います。

- これからも続くこの島の中での軍隊との共存を、多くの住民が軋轢のない、気持ちの良いものにしていくために、町当局は、自衛隊に対して、申し入れるべきものは、はっきりと申し入れて頂きたいと思います。先日も、公民館に自衛隊 15 人ずつ配置の話がありました。多くの反対意見がある中、受け入れを公民館は決めました。多様な意見をまとめもせずに、強行すれば反発を買いうだけでしょう。公民館行事に参加したくない人も増えるでしょう。

町当局が、全体の奉仕者として公平に調整役になってほしいと願います。

- 自衛隊の配備計画の段階から、今まで、多くの人が島を去りました。争いの素となったこの配備計画ですが、これから島の未来は、たった 2 年で入れ替わる、自衛隊の隊員が作れるものではありません。島での生業を営んでいる人がいてこその島であると思います。そのような人を島に引き留める・または島で何かをやりたい人を支援する、事業をしてください。

以上要望いたします。

島の明るい未来のため、よろしくお願いいたします。

16
平成 24 年 9 月 15 日

与那国町議会
議員 糸数健一 殿

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

住民投票条例の制定請求 可決への要請

与那国町への自衛隊基地建設是非を問う住民条例の制定を目指し、544 筆の請求署名が与那国町長に提出された。

この署名賛同者には、基地建設に賛成の方、反対の方、双方の人達がおられます。

我々は、自衛隊の基地配備に伴うメリット、デメリットが町民に示されないままに、防衛省の方針の元、配備されるという事態は今後の町民の生活に禍根を残すことになると考えます。

米軍・防衛省が県民の理解が得られないままにオスプレイ配備を強行することへの怒りと通じる点があると思います。

議会制民主主義であるこの時代に直接民主主義を持ち込むことについて異議があるかもしれません。しかし、基地建設の是非という件に関しましては、どうしても町民一人一人の意思により決定させて欲しいという多くの町民の気持ちをぜひ受け止めて頂きたいです。

つきましては 9 月 19 日臨時議会におきましては、全会一致で条例制定請求を可決して頂けます様、要請いたします。

以上

平成24年11月27日

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

共同代表 稲川宏二様
狩野文江様
山口京子様

与那国町議会議員

前西原 武三
崎原 孫吉
糸数 健一
嵩西 茂則



自衛隊基地配備についての公開質問状（回答）

2012年11月20日付けで貴殿より6項目質問のあった件について、与党議員の協議の結果意見をとりまとめましたので、別紙のとおり回答します。

- ① 住民投票条例案の否決による深刻な町民間の対立の対処策を示せ。
今まで自衛隊が配備されていなかったことによる、与那国町の発展に不都合はあったのか。

→ 条例案の否決により深刻な町民間の対立があるとは考えていません。
昨今の当町を取り巻く厳しい経済情勢や地元経済の衰退は、深刻な問題と
考えています。

- ② 有事の際には沿岸監視部隊のような、目や耳となるような部隊が最初の攻撃目
標となるが、そのような危険な部隊を誘致しようとする理由を示せ。

→ 質問の「沿岸監視部隊が最初の攻撃目標となる」について、その根拠が明
らかでないため、お答えすることができません。

- ③ 自衛隊配置による経済効果を具体的に示せ。

また、島内の業者は防衛省の事業を請け負うことはできないと聞いているが、
解決策を具体的に示せ。

→ 100名規模の部隊が配置されることで、当該隊員が収める地方税で、町
の税収が増えるものと考えています。これは、町にとって非常に大きな経済
効果になると考えます。

なお、質問の「島内業者の請負」について、その根拠が明らかでないため、
お答えすることはできません。

- ④ 自衛隊基地がある自治体は全国的に見て、人口が減少傾向にある。人口増加へ
の施策は自衛隊誘致以外に無いのか、その理由と根拠を示せ。

→ 質問の「自衛隊基地がある自治体の人口が減少傾向にある」について、そ
の根拠が明らかではありませんが、自衛隊誘致は、人口増加施策の一つとし
て考えています。なお、自衛隊誘致以外の人口増加施策についても、引き続
き、検討していく必要があると考えています。

- ⑤ 「住民投票は議会民主主義の破壊」と与党町議は主張しているが、多数決で少
数意見をつぶすことは議会制民主主義破壊の根源である。真の議会制民主主義に
ついての見解を示せ。

→ 質問の趣旨が不明なため、お答えできません。

- ⑤ オスプレイを含め、米軍に対する所見、米軍の八重山諸島への進出の可能性に
ついての見解を示せ。

→ 米軍のオスプレイについては、町としての考えは一環しております。また、
米軍の八重山への進出の可能性をお答えすることは困難です。

令和4年9月12日

自由民主党政務調査会長

衆議院議員 萩生田 光一 殿

新 新

与那国町長 糸 数 健 一

与那国町の振興開発について（要請）

謹啓 秋色の候、貴殿ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。平素より与那国町の振興開発並びに社会資本の整備等につきましては格別のご高配を賜り、厚く感謝申し上げます。

さて、与那国町は復帰後、沖縄振興開発特別措置法及び沖縄振興特別推進交付金に基づき、自立的発展を図るため諸施策を推進しております。

このような中で、観光産業を中核として農林水産業・地場型製造業の振興を図るとともに、国境であるという地理的条件を活かして隣接する台湾との文化・経済・社会の各面の国際交流を促進し、「与那国町の自立及び活性化」を図り、併せて国土の保全に努めていきたいと考えております。

つきましては、直面する諸問題について下記のとおり要請いたしますので、貴殿の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

また、本町の立地条件を活かした島嶼型エネルギー開発について（別添1）、企画立案中ですが、所管する資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課及び新エネルギーシステム課と協議しながら具体化に向け取り組んでいく所存ですので、お目通し頂き、ご支援、ご指導方よろしくお願い申し上げます。

令和4年9月26日

経済安全保障担当

内閣府特命担当大臣 高市 早苗 殿

封

与那国町長 糸 数 健 一

与那国町の振興開発について（要請）

謹啓 秋色の候、貴殿ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。平素より与那国町の振興開発並びに社会資本の整備等につきましては格別のご高配を賜り、厚く感謝申し上げます。

さて、与那国町は復帰後、沖縄振興開発特別措置法及び沖縄振興特別推進交付金に基づき、自立的発展を図るため諸施策を推進しております。

このような中で、観光産業を中核として農林水産業・地場型製造業の振興を図るとともに、国境であるという地理的条件を活かして隣接する台湾との文化・経済・社会の各面の国際交流を促進し、「与那国町の自立及び活性化」を図り、併せて国土の保全に努めていきたいと考えております。

つきましては、直面する諸問題について下記のとおり要請いたしますので、貴殿の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

また、本町の立地条件を活かした島嶼型エネルギー開発について（別添1）、企画立案中ですが、所管する資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課及び新エネルギーシステム課と協議しながら具体化に向け取り組んでいく所存ですので、お目通し頂き、ご支援、ご指導方よろしく申し上げます。

一、姉妹都市台湾との交流について

与那国町は、終戦直後の台湾貿易で多いに栄え、昭和 22 年には人口 12,000 人を数えました。その後、離島の宿命とも言える医療不安や、高等学校未設置による子弟教育の限界等で人口が減少し続け、現在は、約 1,700 人が生活し、国境を守っています。

長年にわたる町民の「夢」であります、台湾との国境交流再開に向けた船舶による定期航路化を実現すべく、与那国町と花蓮市を結ぶ「高速船を活用した社会実験」及び国境に位置する本町の地理的優位性を発揮した日本と外国の結節点としての機能の在り方について検討する「国境交流結節点化推進事業」を進めているところであります。外国との往来については、関係省庁への様々な申請手続きが必要になります。

つきましては、これらの諸手続きがスムーズに行えるよう特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

一、与那国空港及び新港湾の整備について

本町は台湾に最も近い日本最西端の島であります。与那国島は経済水域の維持や海洋資源の確保等、我が国の国家的利益に大きく貢献しております。平成 28 年 3 月に陸上自衛隊沿岸監視部隊が駐屯するまでは、警察官 2 名が国境の島の警備にあたっていました。近年は台湾の危機を巡り、様々な情報がメディアをとおして報じられております。中国、台湾の問題は、平和的な解決を望むものでありますが、あらゆる有事も想定する必要があります。有事の際、台湾に最も近い与那国町は、国民保護の観点から、島外へ全島民を避難させる必要が生じる可能性があります。その際の

島には必要不可欠な与那国空港は平成19年に定期便の小型ジェット機に対応するため、1,500mから2,000mに滑走路を延長し、輸送能力の増加を図っていただきましたが、前述の観点から更なる空港（別添図1）の機能拡充を要望いたします。

特に離島における港湾は、島民の生活基盤及び産業基盤の形成、地域の活性化に貢献するとともに、背後地との交通結節点としても重要な役割を担う施設であります。また、有事或いは、災害時の防災拠点の際、全島避難の輸送基地としても欠かせない重要な施設であります。沖縄県が管理する祖納港があるものの、港湾間口が北方向に位置しており、定期船フェリーの接岸時に冬季の静穏度が確保されず、通年の就航ができる状態にありません。長年にわたり、多くの費用を投じて、未だに利便性がある港湾ではありません。このような状況に鑑み、立地的に費用対効果が得られ、通年の静穏度も期待できる新たな港湾を整備する必要があります。諸条件である港湾間口が南方向に位置し、費用対効果が得られ、更に短期間で整備可能な内陸的な港湾である『比川^{ひかわ}港湾（別添図2）』の新たな整備促進を図れるよう、積極的な支援を要望いたします。

島には必要不可欠な与那国空港は平成19年に定期便の小型ゼット機に対応するため、1,500mから2,000mに滑走路を延長し、輸送能力の増加を図っていただきましたが、前述の観点から更なる空港（別添図1）の機能拡充を要望いたします。

特に離島における港湾は、島民の生活基盤及び産業基盤の形成、地域の活性化に貢献するとともに、背後地との交通結節点としても重要な役割を担う施設であります。また、有事或いは、災害時の防災拠点の際、全島避難の輸送基地としても欠かせない重要な施設であります。沖縄県が管理する祖納港があるものの、港湾間口が北方向に位置しており、定期船フェリーの接岸時に冬季の静穏度が確保されず、通年の就航ができる状態にありません。長年にわたり、多くの費用を投じて、未だに利便性がある港湾ではありません。このような状況に鑑み、立地的に費用対効果が得られ、通年の静穏度も期待できる新たな港湾を整備する必要があります。諸条件である港湾間口が南方向に位置し、費用対効果が得られ、更に短期間で整備可能な内陸的な港湾である『比川^{ひかわ}港湾（別添図2）』の新たな整備促進が図れるよう、積極的な支援を要望いたします。

島には必要不可欠な与那国空港は平成19年に定期便の小型セブツ機に対応するため、1,500mから2,000mに滑走路を延長し、輸送能力の増加を図っていただきましたが、前述の観点から更なる空港（別添図1）の機能拡充を要望いたします。

特に離島における港湾は、島民の生活基盤及び産業基盤の形成、地域の活性化に貢献するとともに、背後地との交通結節点としても重要な役割を担う施設であります。また、有事或いは、災害時の防災拠点の際、全島避難の輸送基地としても欠かせない重要な施設であります。沖縄県が管理する祖納港があるものの、港湾間口が北方向に位置しており、定期船フェリーの接岸時に冬季の静穏度が確保されず、通年の就航ができる状態にありません。長年にわたり、多くの費用を投じて、未だに利便性がある港湾ではありません。このような状況に鑑み、立地的に費用対効果が得られ、通年の静穏度も期待できる新たな港湾を整備する必要があります。諸条件である港湾間口が南方向に位置し、費用対効果が得られ、更に短期間で整備可能な内陸的な港湾である『比川^{ひかわ}港湾（別添図2）』の新たな整備促進を図れるよう、積極的な支援を要望いたします。

移動手段として船舶や航空機での移動を余儀なくされます。

島には必要不可欠な与那国空港は平成19年に定期便の小型ジェット機に対応するため、1,500mから2,000mに滑走路を延長し、輸送能力の増加を図っていただきましたが、前述の観点から更なる空港（別添図1）の機能拡充を要望いたします。

特に離島における港湾は、島民の生活基盤及び産業基盤の形成、地域の活性化に貢献するとともに、背後地との交通結節点としても重要な役割を担う施設であります。また、有事或いは、災害時の防災拠点の際、全島避難の輸送基地としても欠かせない重要な施設であります。沖縄県が管理する祖納港があるものの、港湾間口が北方向に位置しており、定期船フェリーの接岸時に冬季の静穏度が確保されず、通年の就航ができる状態にありません。長年にわたり、多くの費用を投じて、未だに利便性がある港湾ではありません。このような状況に鑑み、立地的に費用対効果が得られ、通年の静穏度も期待できる新たな港湾を整備する必要があります。諸条件である港湾間口が南方向に位置し、費用対効果が得られ、更に短期間で整備可能な内陸的な港湾である『比川^{ひかわ}港湾（別添図2）』の新たな整備促進が図れるよう、積極的な支援を要望いたします。

与那国島位置図

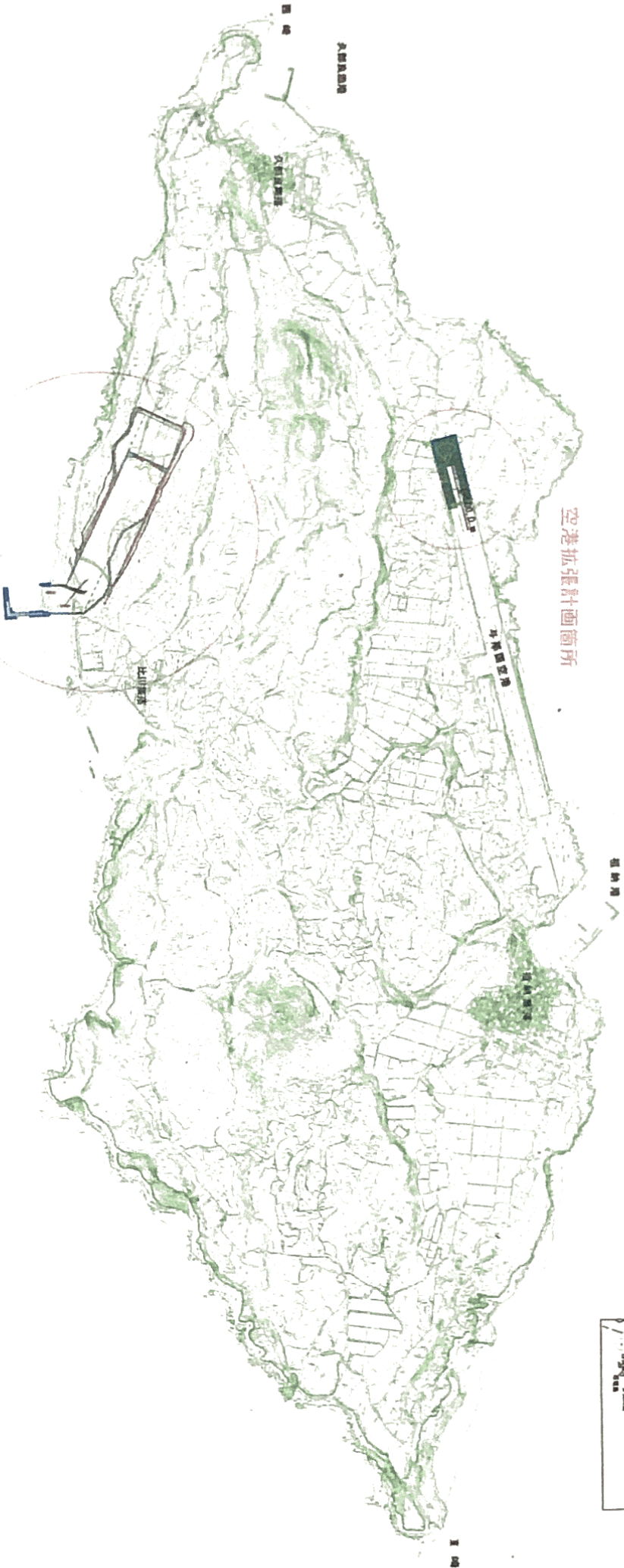
3 = 1 / 20000



与那国島の位置図

空港拡張計画箇所

港湾計画箇所

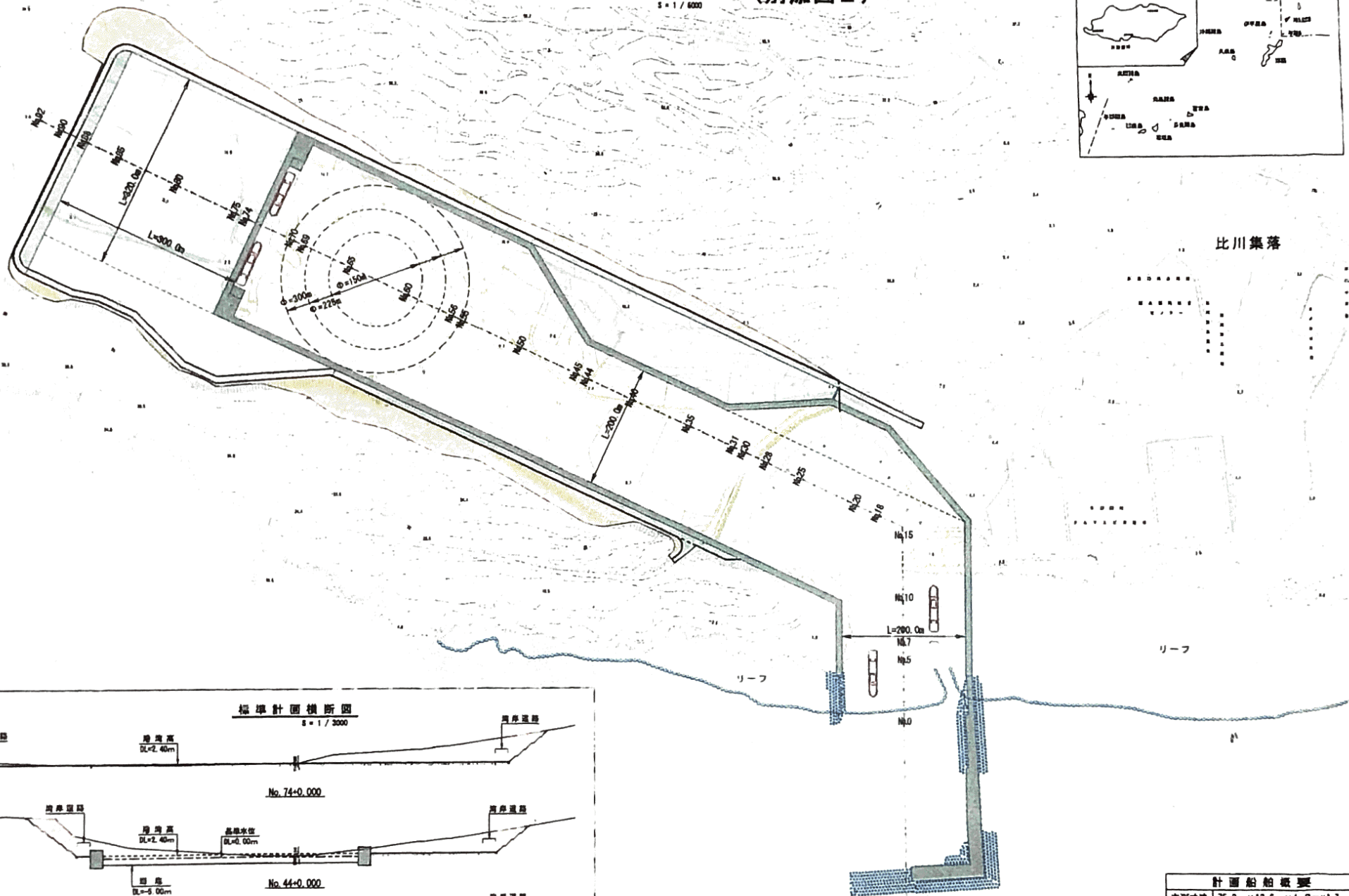




仮称比川港計画平面図

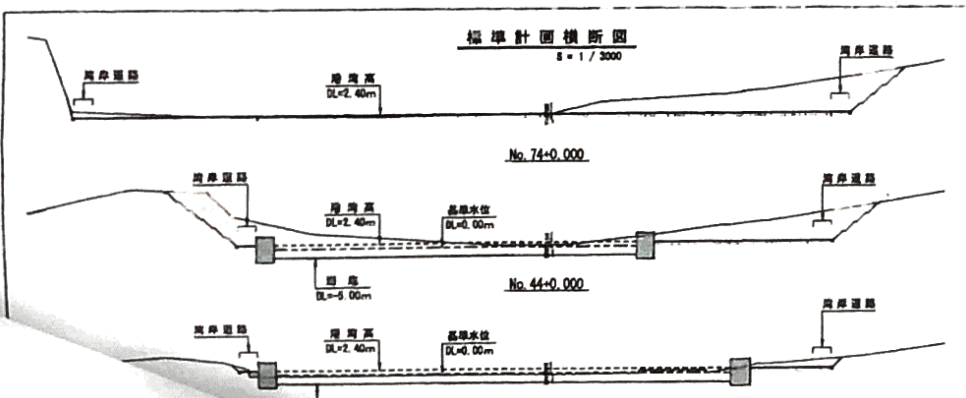
(別添図2)

S = 1 / 4000



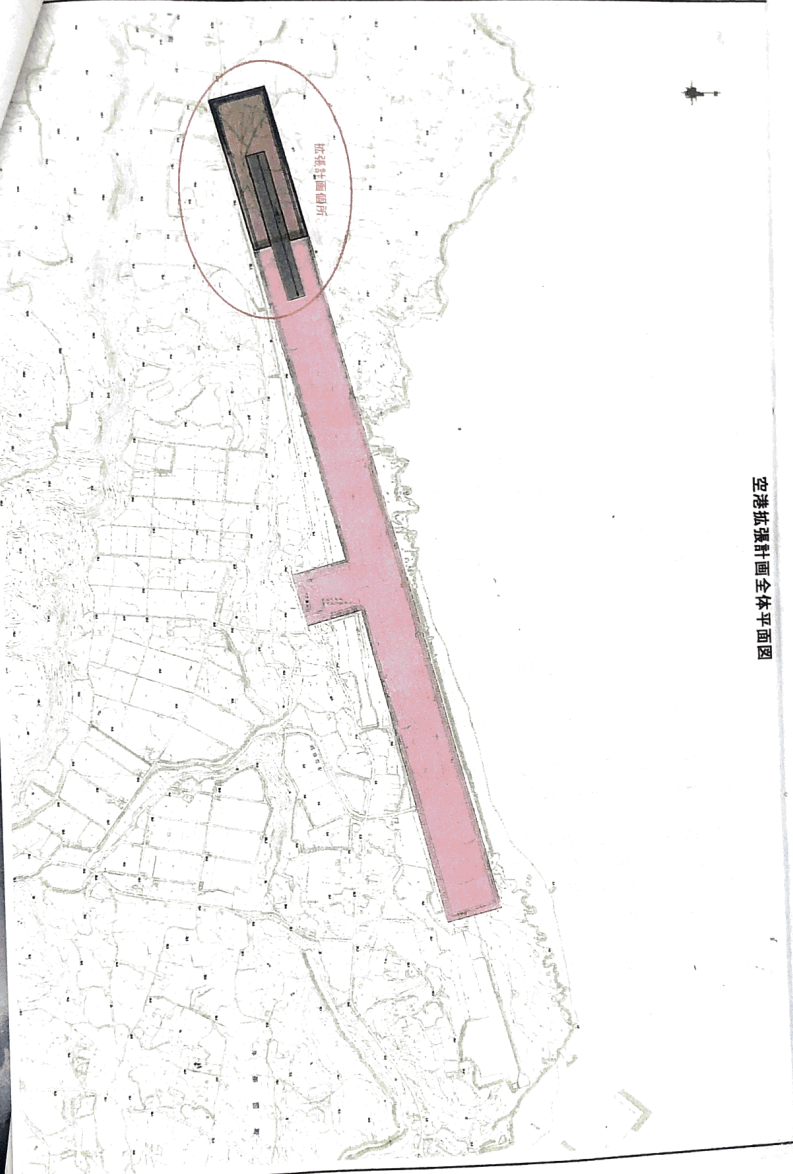
標準計画横断面図

S = 1 / 3000



計画船舶概要	
主船寸法	75.0m×13.6m×4.8m×1.7m
船種	旅客フェリー
総トン数	約2,000t
旅客数	350名

空港拡張計画全体平面図



島嶼型エネルギー開発について

～持続可能な社会・経済・環境実現のための産・学・官連携による地方創生～

海流エネルギーは温室効果ガスの排出抑制にもつながる再生可能エネルギーの一種で、太陽光や風力発電と違い昼夜や季節、天候に左右されず流れの速さや向きの変動が少ないため、離島や系統連携等の制約などで、これまで再生可能エネルギーの導入が困難であった地域への導入が期待できます。

現在、与那国町内の電力の約90%は化石燃料による発電で、太陽光や風力もありますが当初2基で稼働していた風車1基は台風で破損し使用不可能になり撤去されるなど、季節や台風等の天候に左右され、太陽光については限られた島の面積のなかでは拡大が難しいのが現状であります。

そこで、当町において幾つかの再生可能エネルギーの内、最も与那国島に適していると思われる海流エネルギーを利用した島内消費電力及び余剰電力を利用した他産業への波及を狙いとして海流発電の導入とその前提となる実証実験についてご配慮いただきたい。

また、海流発電導入と、その後の他産業への波及の考え方、実現については本町単独では力量不足であることから、国・県・産業界一体となったお力添えを頂きたいと思っております。

I 海流発電実証事業の導入

日本の沿岸付近には世界的にも有数のエネルギーを持つ黒潮などの強い海流が年間を通じて安定的に流れており、特に当与那国島においては“黒潮の中に島がある”といっても過言ではないほど黒潮の流れが日本の他の地域に比べて最も近い場所に位置しています。

与那国島と台湾の間を流れる黒潮の流速は速いところでは毎秒2m以上、輸送する水量は毎秒 5,000 万トンに達するといわれているこの膨大なエネルギーが現在全くといって良いほど利用されていません。

そこで、当町では島の周囲を流れる黒潮を活用した発電を導入し島内消費電力の地産地消を図ると共に、将来他産業への波及効果による島の産業の活性化を狙いますが、とりわけメガワット級の発電量が期待される余剰電力を利用した海水の電気分解による水素の生産も可能となることから、国が提唱している水素社会実現の一端を担うものと考えております。

そのためにも、まずは海流発電装置を実際に設置し与那国島にあった装置の候補を探るべく早期に実証事業を展開して参りたいと考えております。

Ⅱ 水素社会実現のための水素エネルギーの生産

現在、長期的に安定した持続的・自立的なエネルギー供給により、我が国経済社会の更なる発展と国民生活の向上、世界の持続的な発展への貢献を目指すとして、国は10年後の水素利用社会実現を目指しています。

水素利用社会とは、日々の生活や経済活動などに水素を使うことが浸透した社会のことで、現在の日本は、石油や石炭、天然ガスといった化石燃料に、エネルギーの大部分を依存している状況です。化石燃料には、燃やすときに二酸化炭素を排出することや、資源が限られていることなど、さまざまな問題があります。今と同じように化石燃料を使い続けることは全世界的な観点からも難しく世界中で問題視されています。そのような状況の中、脚光を浴びているひとつに水素があります。

水素は、多様な資源から製造できるため、国内での製造や、海外からの資源の調達先の多様化を通じ、我が国のエネルギー供給・調達リスクの低減に資するエネルギーです。また、水素は、再生可能エネルギーによる水の電気分解や、化石燃料と二酸化炭素の貯留・再利用技術を組み合わせることで、カーボンフリーなエネルギーとして活用可能で、すで実証化され実社会でも取り組み始めているところであります。

日本は、水素の社会実装に向けて、水素を「つくり」「はこび」「ためて」「つかう」取組を、世界に先駆けて推進しています。しかし水素を「つくる」分野で国内での取り組みは現在、化石エネルギー等を利用した他のエネルギー利用時に出る熱源等を利用した副次的な水素生産が始まっていますが、当水素生産では生産量は限定的であり、水素社会実現のためには外国からの輸入に頼らないといけない状況にあります。

但し、一次エネルギーとしての海流発電により得た膨大な電力を利用した水素エネルギーを国内で大量かつ安定的に生産できることが現在の技術により可能と考えます。

与那国町で要望しています海流発電は、規模にもよりますが島の現在の人口約1,700人では消費しきれない余剰電力が出てきます。当余剰電力を他産業へ利用する予定ですが、一年を通して昼夜を問わず発電できる電力をどう利用するのか課題であり、現在の与那国町の経済力を考慮すると、利用できる電力を見過ごす事になりうる事が推察されます。

そこで、電力を利用し海水の電気分解による水素の生産ができないか模索しております。そのことが実現可能ならば、与那国島を水素生産の一大供給基地として、国内外への水素燃料供給が可能な地となることも夢ではありません。

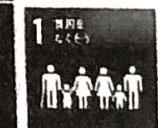
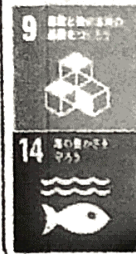
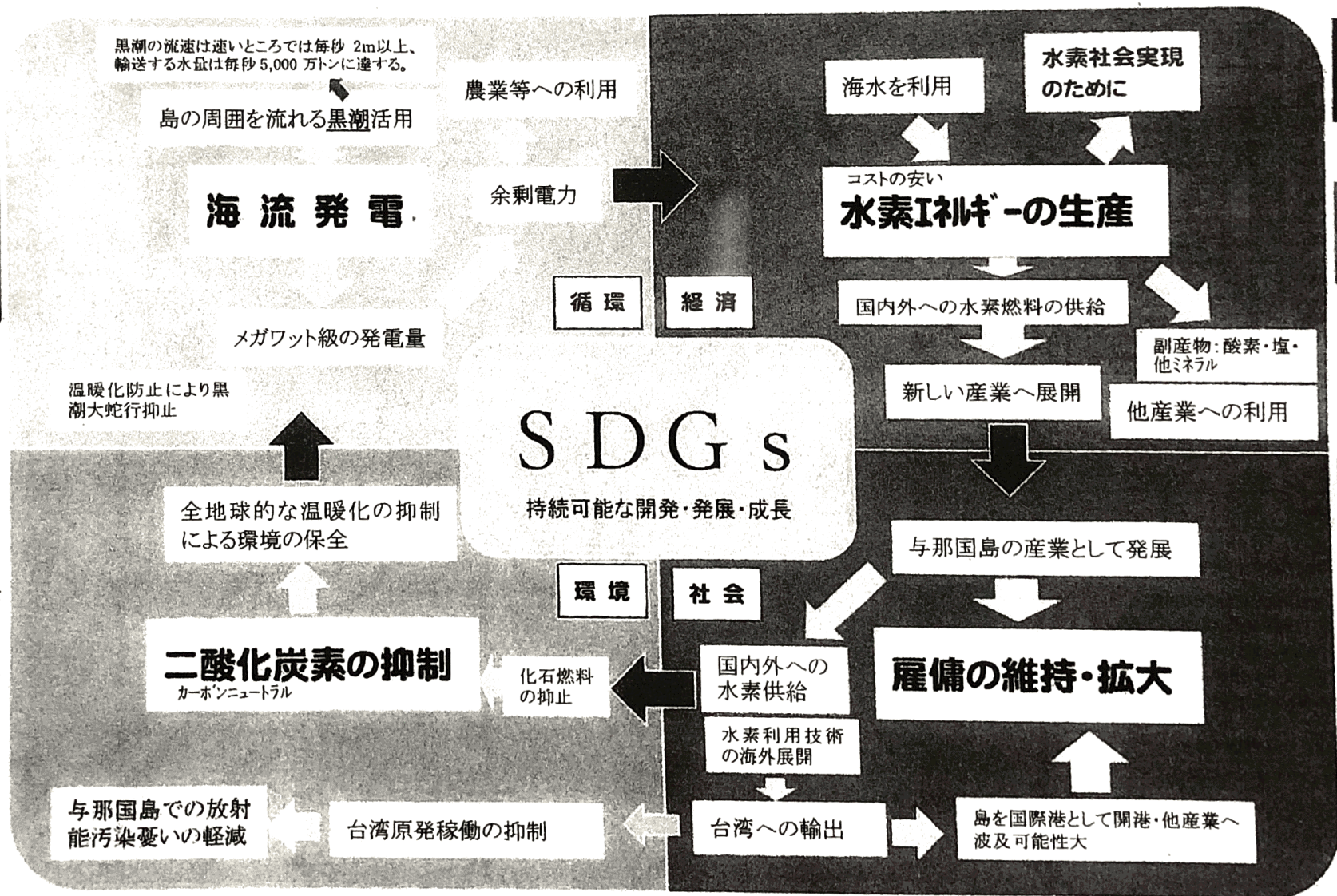
このことは、地域創生というよりも日本の原動力になる可能性を秘めたプロジェクトとなりえることと考えております。同時に、水素運搬・貯蔵・利用のための研究施設や実証プロジェクトを同島において可能と考えます。持続可能な開発・発展・成長のSDGsにも繋がる一大プロジェクトとなり得ると確信しております。

“黒潮×与那国島×水素＝エネルギー革命”

持続可能な社会・経済・環境実現のために(島嶼型IHI[®]-開発) (産・学・官連携による地方創生)



17. パートナーシップで目標を達成しよう

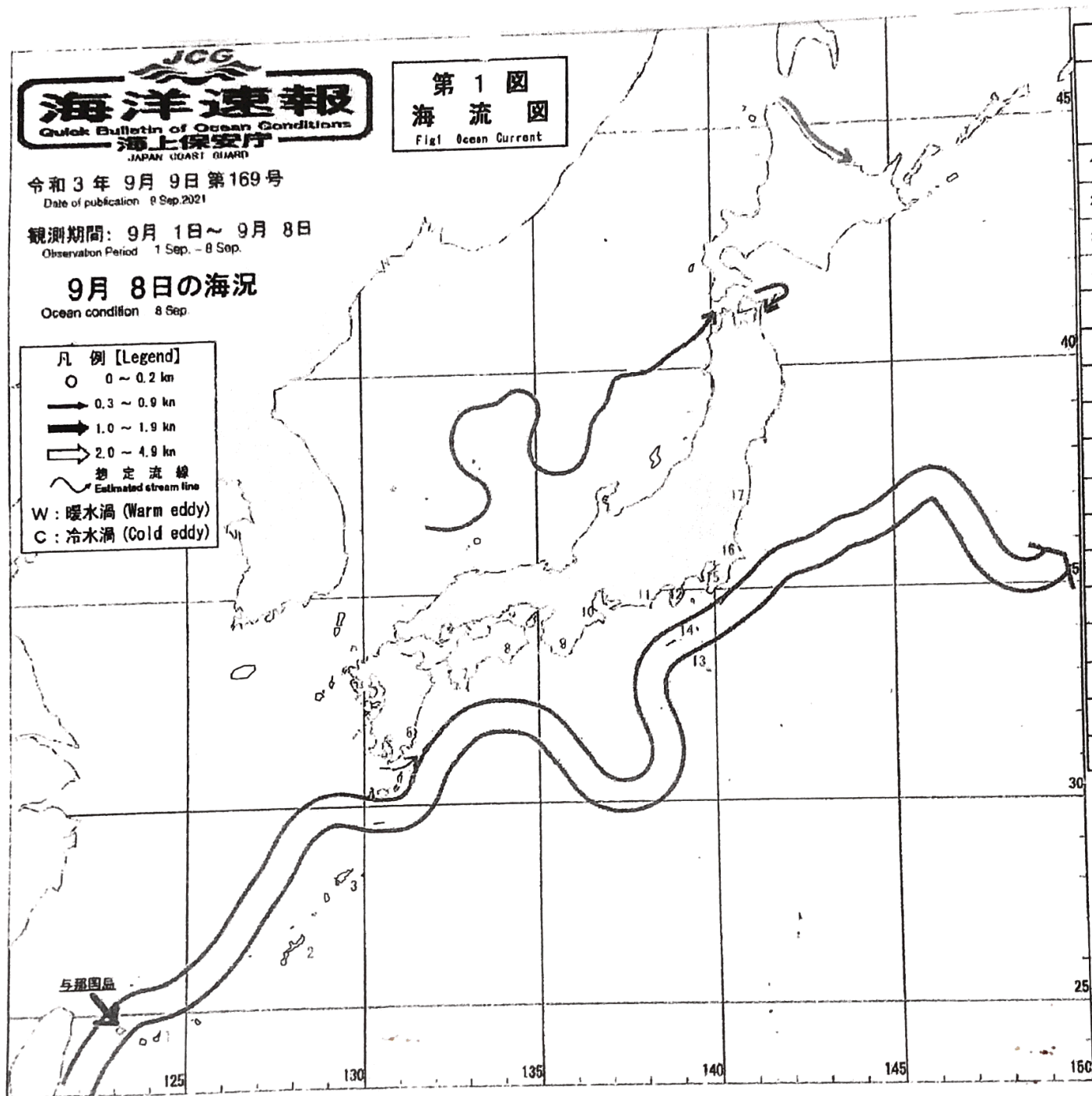
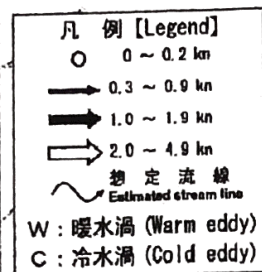


令和3年9月9日第169号
Date of publication: 9 Sep. 2021

観測期間: 9月1日~9月8日
Observation Period: 1 Sep. - 8 Sep.

9月8日の海況
Ocean condition: 8 Sep.

第1図
海流図
Fig.1 Ocean Current



黒潮本流 (Kuroshio Current)			
	地名 Place Name	観測までの方向 Direction	観測までの距離 DML (NM)
1	石垣島 (Ishigaki Shima)	N	55
2	沖縄島 (Okinawa Shima)	NW	80
3	奄美大島 (Amami-Oshima)	NW	90
4	豊久島 (Yoku Shima)	W	60
5	種子島 (Tanaka Shima)	S	25
6	都井岬 (Toi Misaki)	SE	35
7	足摺岬 (Ashizuri Misaki)	S	40
8	室戸岬 (Muroto Saki)	S	60
9	潮岬 (Shio-no-Misaki)	S	120
10	大王崎 (Daik Saki)	S	240
11	御前崎 (Omoe Saki)	S	200
12	石廊崎 (Iro Saki)	SSW	120
13	八丈島 (Hachijo Shima)	NW	65
14	三宅島 (Miyake Shima)	-	付近
15	野島崎 (Nojima Saki)	ESE	30
16	大吹崎 (Oho Saki)	E	50
17	塩屋崎 (Shioya Saki)	E	195

【海洋速報に対する問い合わせ】

海上保安庁 海洋情報部 情報利用推進課「海の相談室」

【Inquiry concerning Quick Bulletin of Ocean Conditions】

Marine Information Service Office,

Chart and Marine Information Service Division,

J.H.O.D. J.C.G.

Tel: 03-5500-7155

URL: <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/>

2012年11月20日

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

八重山日報社様

公開質問状の取扱いについて

去った、9月24日の与那国町議会において「与那国町住民投票条例案」が否決されました。民主主義を無視した横暴極まりない与那国町与党議員に対し、私たちは公開質問状を送付し、その真意をたずねるといたしました。島民のみならず、与那国への自衛隊基地誘致に関心を寄せられている方々に、与那国の自衛隊基地誘致問題について与那国の現状を周知したいと考えています。

つきましては私たちの取組みを貴社紙上で紹介していただきたくお願いいたします。ご検討のうえ、ぜひご協力いただきますよう重ねてお願いいたします。

ご不明な点につきましては、下記のものへご紹介くださいますようお願いいたします。

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

共同代表 稲川 宏二 (090-6858-9236)

山口 京子

狩野 文江

2012 年 11 月 20 日

与那国町議会議員

前 西 原 武 三 様
崎 原 孫 吉 様
糸 数 健 一 様
嵩 西 茂 則 様

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

共同代表 稲 川 宏 二
狩 野 文 江
山 口 京 子

自衛隊基地配備についての公開質問状

9 月 24 日の与那国町臨時議会において、議案「自衛隊基地建設の民意を問う住民投票条例案」が審議され、採決の結果、反対議員 3、賛成議員 2 で否決されました。本議会では、採決に先立ち二人の議員による賛成討論と三人の議員による反対討論がおこなわれました。

しかし、賛成・反対討論に引き続き質疑応答がおこなわれるものとおもっていましたが、質疑応答なしですぐに採決されました。私たちは、質疑応答で問題点が明らかになると思っていましたので、非常に残念でなりません。

また、外間守吉町長が住民投票を実施の方向で考えてほしいと意見をつけて提案されたのは、544 人の署名の重さを物語っていました。ところが、議会では「住民投票は議会制民主主義の破壊」などというあらぬ言いがかりをつけて否決されました。与那国町議会は、賛成・反対討論だけで、十分な審議を尽くさず議決されたことこそが、議会制民主主義を蹂躪する暴挙に他なりません。

つきましては、自衛隊基地配備を進めようとしている議員の皆さんに質問させていただきます。

この質問については、11 月 27 日までに文書でご回答いただきますようお願いいたします。ご回答のない場合は、私たちの質問に答えをもたれていないと考えさせていただきます。

なお、この質問及び回答は公開させていただきます。

町民から選挙で選ばれた議員として、真摯な回答をいただけることを信じています。

質問 1 住民投票条例案が否決されたことにより、自衛隊基地配備の賛否で町民を二分する激しい対立が解消されず、地域の分断と混乱が生まれています。今後のまちづくりへ町民のまとまりがどうなるか心配と不安が広がっています。こうした対立と混乱は町民同士にとどまらず郷友会、観光客など与那国島を愛する人々の間にも生じています。この状況をどう受け止めますか。また、対処策を持っておられるでしょうか。見解をお示してください。

さらに、復帰後 40 年間、与那国町に配備計画されている沿岸監視部隊を含む自衛隊基地がないことで与那国町の発展にとって不都合があったでしょうか。もしあるとするならば、具体的に示してください。

質問 2 誘致派の議員の反対討論の中で「与那国に配備される沿岸監視部隊というものは、人の体にたとえると目や耳の部分に当たるものである。ドンパチするわけではないので心配は要らない」という発言がありました。万が一紛争が起こると目と耳の部分は最初に攻撃目標になるのではないのでしょうか。そんな危険な部隊を誘致しようとする見解をお聞かせください。

質問 3 基地を配備することによる与那国町への経済効果があると主張されていますが、どのような経済効果があるのでしょうか。経済効果の内容と、金額を具体的に示してください。

2011 年 10 月 25 日の衆議院安全保障委員会で、「沿岸監視部隊に対する調整交付金はない。過去には北海道羅臼町で道路改修工事 1 件（3/4 補助、1/4 町負担）があっただけ。」と防衛省が答弁しています。これでは与那国町は基地に関連する公共工事などは期待できません。かりにいくらかの工事が発注されとしても、島内の業者は防衛省の事業を請け負うことはできないと聞いています。解決策があるなら公に島内事業者を示してあげてください。

質問 4 「人口減少の歯止め策として基地を誘致する」といわれていますが、全国的に基地のある地域は人口が減少傾向にあります。与那国町はその例外なのでしょうか。また、人口増加への施策は自衛隊基地誘致以外にないのかも含めて、その理由と根拠をお示してください。

質問 5 誘致派の皆さんは、異口同音に「住民投票は議会制民主主義の破壊だ」と発言されていました。民主主義とは徹底的な議論をしつくした上で、賛否を問うことです。なかでも全住民による住民投票での解決は、民主主義の最高の手法といわれています。

与那国町では、住民説明会はしない。町議会では賛否の討論はあっても、質疑応答がされない。こういう多数の横暴こそ議会制民主主義の破壊の根源です。真の議会制民主主義についての見解をお聞きます。

質問 6 戦後 60 年を経ていまだに全国に米軍基地が置かれ続けています。現在、日本には、133 件の米軍基地があります。その中でもひととき米軍基地が集中しているのが沖縄です。日米地位協定のもとで日本の自衛隊基地を日米共同で使用することが義務付けられています。また、県民の総意を踏みにじり、強行配備されたオスプレイはその訓練飛行で日米合意違反を繰り返しています。今月 4 日からは日米共同統合訓練が実施されていますが、米軍に対する所見、及び米軍の八重山諸島への進出の可能性について見解を示されたい。

質問 1 住民投票条例案が否決されたことにより、自衛隊基地配備の賛否で町民を二分する激しい対立が解消されず、地域の分断と混乱が生まれています。今後のまちづくりへ町民のまとまりがどうなるか心配と不安が広がっています。こうした対立と混乱は町民同士にとどまらず郷友会、観光客など与那国島を愛する人々の間にも生じています。この状況をどう受け止めますか。また、対処策を持っておられるでしょうか。見解をお示してください。

さらに、復帰後 40 年間、与那国町に配備計画されている沿岸監視部隊を含む自衛隊基地がないことで与那国町の発展にとって不都合があったのでしょうか。もしあるとするならば、具体的に示してください。

質問 2 誘致派の議員の反対討論の中で「与那国に配備される沿岸監視部隊というものは、人の体にたとえると目や耳の部分に当たるものである。ドンパチするわけではないので心配は要らない」という発言がありました。万が一紛争が起こると目と耳の部分は最初に攻撃目標になるのではないのでしょうか。そんな危険な部隊を誘致しようとする見解をお聞かせください。

質問 3 基地を配備することによる与那国町への経済効果があると主張されていますが、どのような経済効果があるのでしょうか。経済効果の内容と、金額を具体的に示してください。

2011 年 10 月 25 日の衆議院安全保障委員会で、「沿岸監視部隊に対する調整交付金はない。過去には北海道羅臼町で道路改修工事 1 件（3/4 補助、1/4 町負担）があっただけ。」と防衛省が答弁しています。これでは与那国町は基地に関連する公共工事などは期待できません。かりにいくらかの工事が発注されるとしても、島内の業者は防衛省の事業を請け負うことはできないと聞いています。解決策があるなら公に島内事業者を示してあげてください。

質問 4 「人口減少の歯止め策として基地を誘致する」といわれていますが、全国的に基地のある地域は人口が減少傾向にあります。与那国町はその例外なのでしょうか。また、人口増加への施策は自衛隊基地誘致以外になるのかも含めて、その理由と根拠をお示してください。

質問5 誘致派の皆さんは、異口同音に「住民投票は議会制民主主義の破壊だ」と発言されていました。民主主義とは徹底的な議論をしつくした上で、賛否を問うことです。なかでも全住民による住民投票での解決は、民主主義の最高の手法といわれています。

与那国町では、住民説明会はしない。町議会では賛否の討論はあっても、質疑応答がされない。こういう多数の横暴こそ議会制民主主義の破壊の根源です。真の議会制民主主義についての見解をお聞きます。

質問6 戦後60年を経てもまだに全国に米軍基地が置かれ続けています。現在、日本には、133件の米軍基地があります。その中でもひとときわ米軍基地が集中しているのが沖縄です。日米地位協定のもとで日本の自衛隊基地を日米共同で使用することが義務付けられています。また、県民の総意を踏みにじり、強行配備されたオスプレイはその訓練飛行で日米合意違反を繰り返しています。今月4日からは日米共同統合訓練が実施されていますが、米軍に対する所見、及び米軍の八重山諸島への進出の可能性について見解を示されたい。

平成26年5月 日

沖縄防衛局

武田 博史 殿

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

共同代表

稲川宏二

山口京子

狩野史江

陸上自衛隊沿岸監視部隊配備についての公開質問状

4月19日 防衛省主催による基地建設起工式典がとり行われました。

ご承知のとおり式典会場前において抗議集会が開かれ、多く住民のが基地配備に反対の意思を持っています。

平成23年11月17日に防衛省・与那国町による住民説明会がおこなわれましたが、その後は全く説明はありませんでした。

そして去る平成26年2月4日与那国町主催による住民説明会がおこなわれましたが我々町民が理解、納得のいくものでは到底ありえないものでした。

配備に協力的な一部の住民だけが建設内容を知るという不公平な事業の進め方に疑問、反発の感情をもっています。

小野寺防衛大臣は「不安の声を少しでも払拭できるように、これからしっかり説明をしながらすすめていきたい。」と発言しています。

つきましては、表題のとおり基地配備についての公開質問をさせていただきます。

この質問については5月 日までに文書にてご回答いただきますようお願いいたします。

尚、この質問および回答は公開させていただきます。

八重山諸島において、また沖縄県に復帰後初めて新設される自衛隊基地建設計画であります。地元住民が納得できる丁寧な対応を求めます。

よろしくお願いいたします。

与那国島への部隊配備に向け施設着工式 防衛相「南西地域での自衛隊配置の空白埋める」

2014.4.19 21:37 【自衛隊】

防衛省は19日、日本最西端で中国に近い与那国島（沖縄県与那国町）への陸上自衛隊沿岸監視部隊の配備に向け施設建設の着工式を開いた。出席した小野寺五典防衛相はあいさつで「南西地域での自衛隊配置の空白を埋めるもので、役割や意味は大きい」と強調した。中国を監視し、沖縄県・尖閣諸島の防衛態勢を強化する狙いだ。

尖閣諸島の南約150キロの与那国島周辺では、中国海軍の艦艇が航行しているのが頻繁に確認されている。部隊配備が、尖閣諸島の領有権を主張する中国を刺激する可能性もある。

式典に先立ち、会場周辺に集まった配備反対派の住民らと防衛省関係者らが一時もみ合いになり、小野寺氏の会場入りが遅れた。小野寺氏は記者団に「島内にも不安の声があると思うので、少しでも払拭できるようにしっかり説明しながら進める」と述べた。

このニュースの写真



陸上自衛隊沿岸監視部隊の施設建設着工式で、あいさつする小野寺防衛相＝19日午後、沖縄県与那国町

- 防衛省の言う 住民の理解を得るための住民に対する丁寧な説明とは、どのような方法のことですか。
- 沿岸監視部隊の日々の訓練の内容を教えてください。
- 基地施設外での訓練実施はありますか。夜間の訓練はありますか。
- 与那国に配備されるレーダーの機種・性能を教えてください。
- インビ岳の施設の目的を教えてください。
- 多くのレーダー施設は山の中や人里離れた場所に設置されていますが、その理由は何ですか。
- 有事の際の住民の避難誘導の具体的な計画を示してください。
- 有事の際に協力が求められる民間企業や、役場などの役割分担など、具体的な計画を教えてください。
- 有事の際の強制疎開などの可能性はありますか。
- ヘリパットの建設予定は、今はなくても、これから先の配備の可能性はありますか。
- 与那国は観光の島ですが、施設周辺の立ち入り禁止地域や、写真撮影禁止の場所を設定する予定はありますか？
- 米軍が与那国空港、祖納港、久部良港などを使用することはありますか。
-
- 工事の際の赤土流出での環境悪化が懸念されますがその対策を具体的に教えてください。
- 与那国には貴重な動植物がたくさんありますが、生物多様性を守るためにどんな方策を考えているか教えてください。
- 夜行性の生物に対する、配慮はLEDだけですか。
- 土地、建物、家畜などの自衛隊基地配備に係る 保障内容（金額）を教えてください。
- 自衛隊を誘致したい一部の人に、土地の売買代金や、家畜の保障などのお金が支払われていますが、国民の税金の使い方として、公平ではありません。このような、方法を改める必要はありませんか？
- 夜の隊員の外出の門限などはあるのですか？
- 町民の基地内外での雇用はありますか。
- 地元出身の自衛官の、与那国島勤務はあるのですか。
- 配置自衛官すべてが、住民登録するのですか？
- 災害時（津波、台風、地震）は島民救援はあるのですか
- 町のインフラ整備に係る、事業は補助率50%とありますが町が要請している事業は皆この補助率ですか？
- 多くの賛成派住民が期待している、自衛隊による医療支援は、どんなメニューがありますか。

平成23年11月に開催された住民説明会では沿岸監視部隊の規模は100人程度とありましたが、平成26年2月の説明会では150人となっています。なぜ50人増加しているのですか。また後方支援機能の部隊とはどのようなものですか。

・レーダー建設予定地が距離、高さとも民家に非常に近くあります。電磁波による人体への影響を危惧する声が強いのですが、予定地を見直すべきではないでしょうか。(日本の電波防護指針は慢性症状の基準値を設定していない)

・防衛局発注の現況環境調査報告を見ますと黒く塗りつぶされた項目が非常に多いです。(絶滅危惧種など貴重な動植物52種が生息していることを当局は確認している)これほど多くの希少生物が生息している場所は基地建設予定地としては不適格ではないでしょうか。

・レーダーを稼働させるためには大量の水を必要としますが、どれくらいの水を使用しますか。また排水方法はどのようなになっていますか。

・自衛隊の輸送機、輸送艦、ヘリコプターなどが民間空港、民間港に常駐する計画はありますか。

・基地施設外で軍事演習などの訓練をする計画はありますか。

・米軍との合同訓練または、施設の共用の予定・可能性はありますか。
(与那国町長は米軍が島に入ることは身体を張ってでも断固反対するという意志をもっています。)

・基地建設・運用に伴い、基地配備反対住民に理解と協力を求める具体策は持っていますか。
(我々は再度、住民への説明会を要求しています。)

・与那国町議会から要請された 光ファイバーの整備 陸上競技場の整備 官舎の分散配備
駐屯地の自然および景観への配慮 ごみ処理施設の整備 伝統工芸館の建て替え 老人福祉施設と保育施設との整備 自衛隊医官などによる医療支援および緊急患者空輸への協力 地元経済への配慮 など九件の振興策にはどのように対応していただけますか。

・レーダー監視システムを防御すべく大砲、ミサイルなどの火器の装備計画はありますか。